

2017.07.16

株式会社エナテクス 磯江公博

中国全民族抗戦勃発 80 周年記念 及び 国際二戦博物館館長フォーラムに参加して

はじめに

中国全民族(中国国民全体)抗戦勃発 80 周年記念、国際二戦博物館(第二次世界大戦記念館)館長フォーラムが 2017 年 7 月 8 日、中国北京で開催された。このイベントに人間自然科学研究所の小松昭夫理事長へ招待状が届いた。

日本では、日中戦争勃発のきっかけとなった蘆溝橋事件に関する報道は少ないが、中国では自国で展開された日中戦争の始まりであり第 2 次世界大戦へつながる大切な記念日として 1937 年 7 月 7 日がある。この 80 周年の節目のとなるイベントへの参加である。残念なことだか小松社長が急病で参加できなくなり、磯江が名代として参加することとなった。日本人として抗日記念行事に参加する覚悟、平和の事業化を積極的に推進している小松理事長の名代としての責任、と非常に厳しい環境の下での参加となった今回の訪問に関する感想と今後の世界平和に向けた平和の事業化に関する一文を記すものである。

1. 日程

2017 年 7 月 7 日 日本出発 北京世紀金源大飯店 受付
2017 年 7 月 8 日 終日会議参加(館長フォーラム)
2017 年 7 月 9 日 中国抗日戦争紀念館、蘆溝橋見学・交流 山東省台児荘へ移動
2017 年 7 月 10 日 台児荘大戦紀念館を訪問・交流
2017 年 7 月 11 日 北京へ移動
2017 年 7 月 12 日 日本帰国

2. フォーラムの内容

2-1. 会議の内容

日中戦争の発端となった1937年の蘆溝橋事件から80年を迎えた 7 月7日、北京市郊外にある蘆溝橋近くの中国人民抗日戦争紀念館で記念式典が開かれた。中国マスコミは大々的にこれを伝えている。式典は例年開かれており、2014年以降の式典には習近平国家主席など最高指導部メンバーが出席することが多かったが、今年の式典に際立った要職の出席はなかったようだ。



中国日報(英語版)が蘆溝橋事件 80 周年を報道

報道によると、王毅外相は3月の記者会見で、日中関係を巡り、今年は国交正常化45周年であるとともに「蘆溝橋事件から80年でもある」と述べ、歴史問題で引き続き日本をけん制する姿勢を示した(共同

通信)としているが、今回の式典は以前の「抗日」としていたタイトルを「抗戦」に変更する等、日本をターゲットとした記念事業から世界に向けた発信へと変更したようだ。

イベントは中国全民族(中国国民全体)抗戦勃発 80 周年記念行事が 7 月 7 日に開催され、国際二戦博物館館長フォーラムは学術的形式で 7 月 8 日に北京世紀金源大飯店で開催された。館長フォーラムの会議は、事前に原稿を提出し世界平和・第二次世界大戦・博物館運営等に関して一人 10 分間で 18 人がそれぞれ意見を発表する方式で進められた。

2-2. 盧溝橋事件

現在の中華人民共和国が誕生したのは第二次世界大戦後の 1949 年。その中心人物が中国建国の父と言われる毛沢東。それ以前の中国は毛沢東が率いる共産党と蒋介石をトップとする国民党がしのぎを削っていたが、国民党が圧倒的に優勢。そのような状況下で日中戦争が勃発。その日中戦争の引き金になったのが盧溝橋事件である。

盧溝橋事件とは、満州事変によって中国を占領した日本軍が盧溝橋付近に駐留させていた部隊に何者かが発砲したという事件だ。日本側は盧溝橋付近に国民党軍が駐留していたのでこの発砲は当然国民党軍だと思い中国政府との間に停戦協議を成立させた。しかしその後も中国側からの発砲や襲撃が相次ぎ、業を煮やした日本軍が攻撃を仕掛け日中戦争が始まったとされている。

ところが、最近では、盧溝橋で日本軍に発砲したのは共産党軍ではなかったのかという見方が多くある。当時の共産党は力がなく、いたるところで国民党軍に追撃され逃げまわっていた。このままでは共産党の存在さえ危うくなると考え、毛沢東は国民党を弱体化させるために「国民党と日本軍を戦わせてしまえ」と考え盧溝橋事件を引き起こしたのではないかとこの見方だ。なぜなら日中戦争勃



日中戦争の引き金となった盧溝橋

発後、国民党と共産党は手を組み日本軍打倒を目指したが、実際に前線に立ったのは国民党で共産党は後方に下がり兵力を温存させていた。そして国民党軍は日本軍との戦いで疲弊し戦力の低下を余儀なくされた。その後、日中戦争に続く第二次世界大戦で日本が敗れ中国大陆から撤退したあと、共産党は国民党と激突し、国民党は共産党に破れた。

中国古典の「孫子の兵法」に「兵は詭道(きどう)なり」という言葉がある。兵とは、戦争のこと。詭道とは、正道ではない道、ごまかしの道、権謀術数など智恵の限りを使って戦う道をいう。現代においては、「兵は詭道なり」は「戦いは智恵なり」と理解すべきかもしれない。中国共産党の本質が「孫子の兵法」にここにある。

2-3. 人間自然科学研究所と抗日戦争記念館との関係

この度、北京抗日戦争記念館、李宗遠館長より小松理事長に 80 周年記念イベントに公式招待状が届いた背景に、研究所の地道な活動の成果・経緯の存在を伺うことができる。

研究所の魏亜鈴さんによると、1998年8月の小松理事長が大連三高機電有限公司李曉明様の案内で初めて中国を訪問した時までさかのぼる。その時、旅順・日本軍監獄跡、南京大虐殺記念館も訪問し、以来、中国戦争関連の記念館との交流が始まり、2001年5月には、出雲空港よりチャーター便にて「第二回訪中文化経済交流団」80名を結成して、当記念館も訪問・献花ならびに趣意書と運営基金としての100万円を寄贈。2006年9月、2007年12月に2回にわたって南京記念館の平和フォーラムに参加。2008年12月 北京学苑出版社にて4か国語「中国名言録」座談会に元館長張承鈞様と元唐副館長に参加して頂き、交流。2013年2月 記念館を訪問、元館長の張承鈞様と再会し当時副館長だった李宗遠様と面会・交流。記念館訪問の前にはハルビンにある安重根記念館・731軍隊跡陳列館・台児莊大戦記念館を訪問。2015年8月北京訪問時、副館長だった李館長に記念館を案内して頂いた。李宗遠様は、昨年に館長に昇進。



フォーラムに参加したメンバーと合同記念撮影

そして、2017年6月10日に小松理事長が北京出張の際、李宗遠館長と懇親。その際7月7日の抗日戦争80周年の記念イベントの参加と平和構想の提言発表を依頼された。こうした経緯で今回のイベント参加となった。

2-4. 発表内容

フォーラム参加者は第二次世界大戦記念館館長を中心に組織された協議会で、2015年7月に中国以外の戦争記念館を交えての開催となり、今回の大会には中国国内はもちろんのこと、ロシア、アメリカ、ウクライナ、マレーシア、フィリピン、スロバキア、韓国等、世界中からの参加と、館長推薦での我々日本の68名が参加しての会議である。7月8日の会議は、8時30分から開会され17時40分までの長時間の会議となった。日程は、午前が組織・運営に関する協議で、午後が各館長の意見発表である。意見発表は次の5項目に関してそれぞれの立場で行われた。

- (1) 盧溝橋事件と世界反ファシスト戦争について
- (2) 世界平和を促進する第二次世界大戦博物館における機能と役割
- (3) 第二次世界大戦博物館間の交流と協力プロジェクトについて
- (4) 第二次世界大戦類の博物館の将来について
- (5) 第二次世界大戦博物館協会の発展及び2018年の年会開催について

2-5. 小松理事長の提言

冒頭でも記したが、急きょ小松理事長の名代としての参加となった。今回の式典参加は極めて重要な意味を持つ。なぜならば、人間自然科学研究所が 1997 年から始まった世界の戦争・平和記念館を訪問、学習・献花・寄付を行うなどの活動実績を活かし、紛争・戦争に至る背景・経緯・実態を研究し、歴史問題を「戦前責任」「戦中責任」「戦後責任」の3つに分けて考察する中で、世界の人々と力を合わせ「平和の事業化」、すなわち「対立の文化」から「共生の文化」への転換を一気に具現化できる時は正に今であると認識し、この式典を機に、北京から世界へ向けて 25 年の活動から生まれた構想・提言を発表したからである。



フォーラム会場の様子

その名代としての参加は、おそらくこれまでの「抗日戦争」のタイトルに見る通り日本人参加は初めての式典・会議であり、日程の最後に予定された発表の順番が来るまで、そして最前列で、さらに中国語・ロシア語・英語だけの通訳の中、9 時間におよぶ座位での待機は、かなり厳しいものであった。



人間自然科学研究所の提言を発表

巻末に提言を添付するが、概要は 3つの提言から成り立っており ①沖縄に「国際平和センター」を創設、「世界恒久平和発祥の島」とする ②共和国の核放棄と世界すべての核保有

国の核放棄を同時に実行、放棄された核兵器はすべて 3 大核保有国（中国・ロシア・アメリカ）に移管、朝鮮半島と日本列島の非核化を実現する。3 大核保有国は段階的に核削減し、大国の人類史的な責任を果たす ③「国民国連」の樹立である。

以上の構想・提言が世界に広がり、議論が進み、国連の場で承認が得られる流れが生まれることを念じているとするものだ。

2-6. 懇親会

懇親会は主催者である中国人民抗日戦争纪念馆李宗遠館長、中国ロシア友好協会オパソブ会長等の主賓・主催者メンバーと同席のテーブルでの懇親会となった。隣席となったアメリカ海外抗日戦争纪念馆名誉館長の李邦琴女史は、戦争で 3 人の兄弟をなくし、中国人で初めて海外の抗日戦争纪念馆の館長となった女性でサンフランシスコ在住あるが、フォーラムにおいて涙ながらのスピーチで述べられた「過去は変わらない、しかし未来は変えられる」の件で話しかけると、安倍首相の靖国訪問、憲法改正、自衛隊の交戦権等々、日本の政治姿勢に厳しい声をあげられた。



名代として厚く歓待された懇親会(李宗遠館長と)

3. 張可喜氏との再会

3-1. 元中国新華社記者の張可喜氏

2017年3月25日、安重根義士107回忌に参加された元中国新華社記者の張可喜氏と再会した。2015年12月15日北京で「対立から共生へ、小松昭夫の平和理念と実践」中国版出版パーティーの主催者だ。その際、発起人として張可喜氏が研究会の立ち上げを発表され、翌年2016年1月9日、北京百望山森林公園本無堂で設立会が開催され、関係者13名で構成される「和の文化研究会」の委員会が発足した。

ますますお元気で、「小松昭夫氏の独自のユニークな経営経験と和の文化理念、反戦平和活動、東アジアの和解と信頼には『和譲』の力が必要」とか、「小松電機産業株式会社の『高速シートシャッター門番、総合水管理システム

水神』の中国市場での重要性」、特に「中小企業であろうとも経営管理・理念が卓越し、中国中小企業発展の手本」であるとして、中国が新しく取り組んでいる国策である中小企業体制改革の促進には、小松電機産業が発行している「経営理念手帳」の中国版発行を今年中に行うことだと力説された。



モデルとなる経営理念手帳

3-2. 人民東方出版伝媒公司の王麗娜女史

2016年9月20日、準備期間3年を経て、中国で最も権威を持つ人民出版社の傘下である東方出版社の東京支社が設立された。同社は日本で、版權、出版、翻訳、編集、取材、印刷等の業務を広く展開する。ホテル椿山荘東京でおこなわれた「中国・東方出版社東京支社設立記念祝賀会」には、福田康夫元首相、「経営の神様」稲盛和夫氏など、日中両国の政財界、学術界、華僑界から150人が参列。その同列の中国人民東方出版伝媒公司では、小松社長の経営理念手帳をベースとしたビジネス手帳の発行を予定している。実は同社ではすでに、中国国内で稲盛和夫氏の経営理念手帳を700万部販売した実績を持っている。

ネット記事によると、東京支社設立式典での福田康夫元首相はあいさつの中で、「ご存知のように東方出版社は中国で最も権威のある出版社の一つで、人民出版社傘下の会社です。東方出版社日本支社は本日設立されましたが、今後の日中両国がこれを契機に密接な関係となることを期待しています。東方出版社が日中両国の文化交流を非常に重視しており、稲盛和夫先生の多くの書籍を出版し、発行部数の目標が1000万冊であることをお聞きました。東方出版社には大きなパワーがあります。今後、東方出版社の影響力が日本の隅々にまで伝わり、また東方出版社が継続して日中関係を更に密接にし、友好的に発展させることを期待しています。」と述べたとある。



東京支社設立記念祝賀会の様子(ネット記事)

王女史は相当の自信があるようで、小松社長の経営理念が生まれた郷土「八雲立つ出雲の紹介写真を挿入」「若者がビジネス手帳としても役立つカバー付き冊子方式」等々、8月中には骨格を固め、相談し、今年中の発行を目標に途絶えることのないアイデアを語っていた。経営理念手帳の中国版が中国中小企業の誰でも目にする理念となれば「平和の事業化」にとって大きな一歩となる。

4. その他

連日の中国料理に飽き、ホテルに隣接するケンタッキーフライドチキン店に出かけた。注文をカードで支払いをしようすると、このカードは使用できないと拒否。結局ホテルに戻り中国料理を食べることになった。若者で込み合う店内でしばらく様子を見てみると、会計が現金でもなく、カードでもなく、電子決済されていた。聞けば、「支付宝」(アリペイ)が、バーコード読み取りによる決済を支援し中国は既にキャッシュレス社会に入っているとのことだ。調査によると、ネットユーザーの70%以上が「現金はもはや生活の必需品ではない」と答えたという。市内いたるところに貸自転車が駐車されている。これもモバイル決済で車体についたバーコードを読み込んで支払いし、どこでも乗り捨てができるという。車社会で大気汚染が深刻な北京市内ではモバイル自転車が有効と一気に広がったそう。



改札でモバイル決済している市民



モバイル決済のレンタル自転車

ネット情報では北京でキャッシュレス生活の実地調査を行った報告として、たとえば携帯電話で病院の受付も可能。正午に北京大学第一病院に行き、受付ロビーで事務員に「携帯電話で受付できますか」とたずねたところ、「予約の受付もできるし、受付料金を払うこともできる」という返事が返ってきた。携帯で予約受付をして予約した時間に病院に行けばよいということになれば、受付のために長い時間列に並ぶ必要がなくなるとの体験者報告もある。また、北京で一番古い街並みでは、店舗の95%以上が非現金決済に対応している。北京で最も古い胡同(横丁)の煙袋斜街を訪れたところ、そこではほぼすべての店舗が非現金決済を取り入れており、携帯をバーコードにかざしただけで手に入る。現在、煙袋斜街には100軒近い店があり、キャッシュレス取引に対応するところは95%を超えるという。

5. 考察

今回の中国訪問は、小松理事長の体調不良で急きょ名代出席となったが、今回の式典参加は極めて重要であった。人間自然科学研究所が世界の戦争・平和記念館を訪問などの活動実績を活かし、紛争・戦争に至る背景・経緯・実態の研究、世界の人々と力を合わせ「平和の事業化」、すなわち「対立の文化」から「共生の文化」への転換を一気に具現化するため、この式典を機に世界へ向けて構想・提言の発表をしたからである。フォーラム表題へサインする際はマスコミが殺到したが、無事に提言を終えることができ安堵した。



「対立の文化」から「共生の文化」へと記入

もはや、中国は今回の80周年記念行事を「抗日」から「抗战」とスローガンに変更したように、世界のリーダーとしての存在、威厳、余裕を感じる大会であった。北東アジア情勢も北朝鮮の問題も含め刻々と変化している。日本としての立ち位置をしっかりと自覚し「対立から共生へ」の道の先頭を歩まなくては、存続さえ危ぶまれる。おわりに、激暑の中の訪問でしたが、同行をいただいた交易場さん、早乙女さんの支援で大役を果たすことができました、心から感謝いたします。

以上

2017. 07. 20

八雲志人館 交易場修

中国全民族抗戦勃発 80 周年記念 及び 国際二戦博物館館長フォーラム 参加報告

【はじめに】

このたびは「中国全民族抗戦勃発 80 周年記念 及び 国際二戦（第二次世界大戦）博物館館長フォーラム」参加のために、中国訪問の機会をいただき、感謝申し上げます。

このフォーラムに、日本人として唯一、来賓として招待を受けた小松昭夫理事長の名代として出席される磯江公博さんに、呉大新（早乙女涼）さんと共に随行しました。

出発前は、小松理事長が発表（磯江さんが代読）されるスピーチ『『対立の文化』から『共生の文化』へ』の文案作成をお手伝いしました。

このたびの、初めての中国訪問について、ご報告ならびに感想を申し上げます。

【旅程】

- 2017 年 7 月 7 日 松江発～岡山空港～韓国仁川空港～北京国際空港着
フォーラム会場のホテル世紀金源大飯店にチェックイン
- 7 月 8 日 8：30～17：40 フォーラム
- 7 月 9 日 午前、中国人民抗日戦争記念館見学、
午後、盧溝橋見学・山東省台兒莊へ移動、
台兒莊古城の天下第一莊にチェックイン
- 7 月 10 日 午前、台兒莊大戦記念館見学
午後、運河湿地観光、台兒莊古城内散策
- 7 月 11 日 北京へ移動、宿泊
- 7 月 12 日 北京国際空港～韓国仁川空港～岡山空港～松江着

【中国とのご縁】

私の郷里は鹿児島県南さつま市坊津です。坊津は、遣隋使、遣唐使のころから良港として知られ、中国明代の文書には、博多津、安濃津（伊勢）と並んで「日本三津」と称せられ、中国や南方諸国の受け入れ口として栄えました。

坊津は江戸時代には薩摩藩の密貿易の根拠地でした。

井上靖の小説『天平の甍』や映画で知られる、わが国律宗の始祖になった唐の高僧・鑑真和上は、渡日に挑むこと 6 回目にして、沖縄本島に漂着、次いで屋

久島、そして 754 年、ようやく日本本土である坊津の秋妻屋浦（あずまやうら・現在の秋目地区）に漂着しました。私は、この戸数 100 戸足らずの秋目地区で生まれ育ちました。



秋目湾



秋目の鑑真記念館

父方の先祖は、坊津・久志博多浦の「唐人町」に住まっていたと伝え聞いています。17 世紀に、日本の貿易は長崎出島のみに限られたため、多くの中国人が長崎に移りましたが、父方の先祖一族はそのまま博多浦に残りました。

つまり、私には「唐人」すなわち中国人の血が流れているということになります。2017 年 3 月に松江に来られた新華社世界問題研究センター研究員の張可喜氏を、史跡、神社、博物館などにご案内した際に「あなたは福建省・客家の末裔に違いない」とのお墨付きをいただきました。

ちなみに、博多浦には地元の人が「交易場」と呼ぶ場所が残っており、これが私の苗字の由来です。元は、呉さん、魏さん、あるいは王さんだったかもしれません。

このたびは、悠久の時をさかのぼり、「ふるさと」の大地を踏む思いで、中国に旅立ちました。



唐人墓



【フォーラム】

《感想》

1、このたびのフォーラムを主催したのは、国際二戦博物館協会（NGO・NPO）。参加者は、中国国内、アメリカ、ロシア、ヨーロッパ、マレーシア等アジア諸国の第2次世界大戦記念館関係者 69 名で、内、18 名が 10 分間のスピーチを行いました。



フォーラム会場となったホテル世紀金源大飯店



会場内



冒頭、挨拶に立った抗日戦争記念館・李宗遠館長

2、どのスピーチにも、「Japanese Aggression」(日本の侵略)という言葉が含まれており、それが繰り返し、繰り返し耳に突き刺さります。胸が張り裂けそうです。

3、ロシア・中国友好協会のエヴゲニー副議長(84歳)は、ナチス・ドイツに対して「血と命をかけて抗った」と述べられた。各国の参加者も、同じ「歴史の記憶」を胸に刻んで、このフォーラムに臨んでおられることが、スピーチからうかがえました。

4、アメリカ海外抗日戦争記念館の李邦琴名誉館長は、抗日戦で、10代の3人の兄弟をなくした体験を、涙で途切れ途切れになりながら語られた。そして、「許す、しかし忘れることはできない」と厳しい口調で言い切られた。

5、「すさまじい」——フォーラムを聴いていたの感想は、この一語に尽きます。「ふるさとの大地を踏む」などという甘っちょろい感傷は吹き飛ばされました。周恩来総理の「前事を忘れず後事の師とす」、江沢民主席の「歴史を鑑とし未来を拓く」という言葉は、きれいごとではなく、血の噴き出すような、あるいは返り血を浴びるような「すさまじい」言葉であることを思い知らされました。

今を生きる日本人として、「加害側・敗戦国」という事実を直視しなければならないこと。それを、「人類の戦争の終焉の先がけを務める」という、日本人の使命を果たす入口として生かすこと。怨念、憎悪、それに対する反発という負の連鎖を、そのエネルギーを生かし、対立・統合・発展のサイクルで昇華して「共生

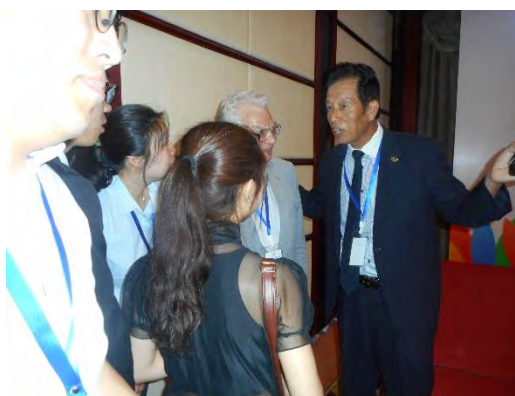
の文化」をめざさなければ、人類の未来は拓けないこと。この小松理事長の理念を、「これしかない」「ここにしか入口はない」と、あらため認識しました。

6、磯江さんは、「1937年7月7日の盧溝橋事件から80年、大きな災難を与えた加害国・敗戦国日本の子孫として中国人民に心からの謝罪と周恩来総理の未来を見据えた戦後の対応に深く感謝申し上げます」と読み上げ、壇上で深々と頭を下げられました。中国の関係者から拍手がありました。

7、磯江さんは、スピーチの最後に、人間自然科学研究所と小松電機産業の地球ロゴマークにこめられた「竹島独島を、対立の文化から共生の文化への転換、世界恒久平和の入口にしたい」という念いを付け加えられました。スピーチが終わると、その日一番の大きな拍手が会場を満たしました。演壇を下りた磯江さんのもとに、何人もの参加者が握手を求めにきました。



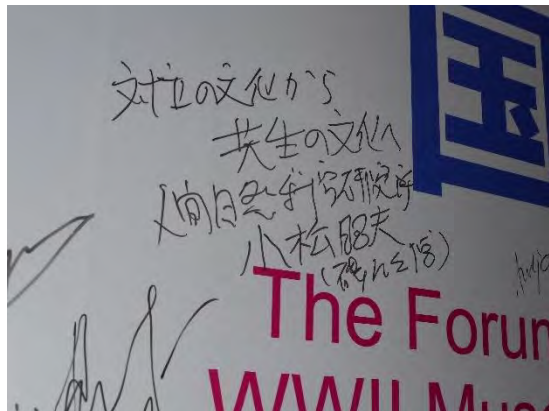
磯江公博さん



磯江さんのスピーチ後、駆け寄ってきた
ロシア・中国友好協会の
エヴゲニー副議長（84歳）

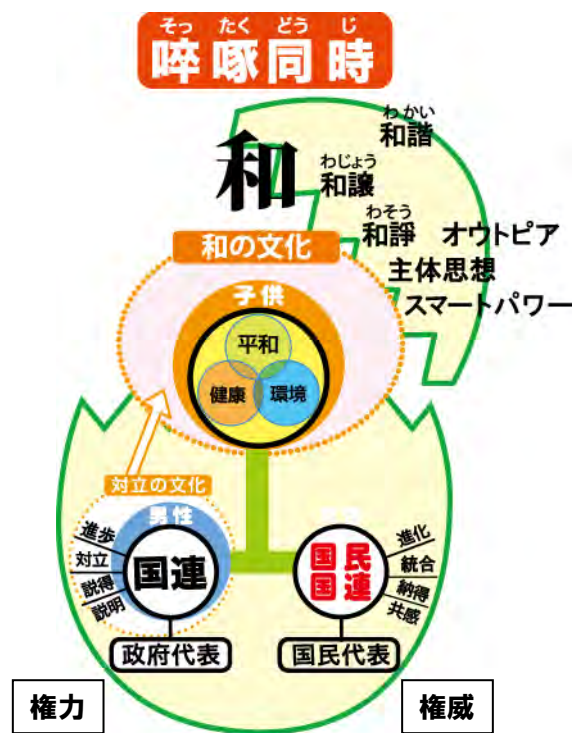


寄書にサインする磯江さん



寄書「対立の文化から共生の文化へ」

◆国民国連



国民国連構想
2008年9月、北京で発表

(2008 年制作)

◇国連＝1945 年 2 月のヤルタ会談で合意され、「権力」である政府で構成されており、第2次世界大戦の教訓から生まれた常任理事国 5 か国を中心に運営されている。

◇国民国連＝人類の特性と歴史的経緯を生かし、自由が保障された論理的な討議を通じて、長い時間軸で道理を実現する道筋を生み出す、「国民代表」で構成され、「権威」が生まれる集団。

◆一般財団法人 人間自然科学研究所 ロゴマーク



星印は、日韓で紛争中の日本海・東海の竹島・独島です。

日本列島は、水球（地球）最大の海・太平洋の各地の地震で起きる津波を、中国、ロシア、朝鮮半島の防波堤の役割ができる場所に位置します。また、4万8千年前、アフリカを出たホモサピエンスが、ユーラシア大陸のヒマラヤ山脈を南北に分かれて東に進み、アジアに到達、「中国・朝鮮半島」「台湾・琉球列島」「シベリア」の3つのルートを経て3万8千年前に、日本列島に到達したと言われています。

噴火・地震津波・台風・洪水など自然大災害を受容しつつ、暖流に囲まれ、南北に長く、水と温泉に恵まれ、針葉樹・落葉樹が生い茂る緑豊かな日本列島で自然の恵みを楽しむ、また地球最大の多民族・ユーラシア大陸の政変で起きる「人類の大移動」が、朝鮮半島と日本海・東海によって食い止められ、日本列島独特の文化が生まれました。

漢字に代表される優れた文化を持つ漢民族は、大陸では同化と自立を繰り返し、世界に流出した人々は西欧文化を取り入れ拠点をつくり、華人ネットワークを形成、今新たな段階を迎えています。

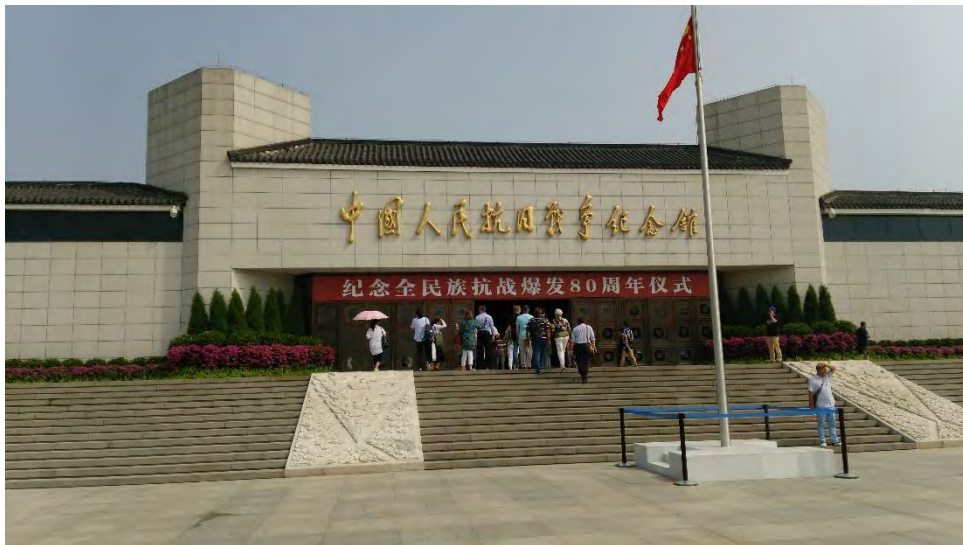
またギリシャを源流とする西欧諸国は、15世紀の大航海時代を経て、全世界に植民地を拓げました。

18世紀になると、エジプト文明を受け継ぐ、ユーラシア大陸西端の島国・イギリスは、蒸気機関の発明による産業・社会革命を起こし、その波を世界にひろげ、植民地争奪戦に勝利しました。そして第2次世界大戦で世界最大の軍事・金融力と消費文化を持った、アメリカ合衆国を誕生させ、現代に至っています。

日本は道を誤り、権威と権力を統合、明治維新を経て、米英独の文明を吸収し、「富国強兵殖産興業」政策を進め、日清戦争、日露戦争、第2次世界大戦に至り、周辺諸国に想像を絶する災難を与え、戦後の東西冷戦とその終結を経て、今日に至っています。

朝鮮半島と日本列島は、アメリカ合衆国・ロシア・中華人民共和国の3大核大国の勢力が拮抗する結節点に位置しています。大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国と日本は、人権・歴史・領土問題などで抑制された対立を続けています。かつて

【中国人民抗日戦争記念館】



中国人民抗日戦争記念館は、1987 年 7 月 7 日、すなわち盧溝橋事件の 50 周年に当たって公開された国家 A 級博物館で、これまでに国内外から約 1700 万人の参観者を受け入れている、中国国内の戦争記念館の中心的存在とされています。

北京の市街地から約 15km 離れていて、盧溝橋事件の舞台となった盧溝橋の隣にあります。

記念館には、1931 年の「九一八事変」（満州事変）から 1945 年の抗戦勝利にかけての 14 年間の歴史資料と写真約 5000 点が展示されています。

総合ホール、日本軍暴行ホール、人民戦争ホール、抗日烈士ホールの 4 つのホールで構成されています。

《盧溝橋事件に至る経緯》

1874 年（明治 7 年）	台湾出兵
1875 年	江華島事件（漢江河口での日朝武力衝突）
1879 年	琉球処分（琉球藩→沖縄県）
1894 年	甲午農民戦争（東学党の乱）。日本、公使館警備と在留邦人保護を名目に朝鮮に派兵、清国軍と対峙。
1894 年	日清戦争
1895 年	日清講和条約（下関条約）。賠償金に加え、遼東半島、台湾の澎湖[ぼうこ]諸島など付属諸島の主権が日本に。 朝鮮国が独立自主の国であることを確認。
1895 年	閔妃(明成皇后)暗殺
1902 年	日英同盟
1904 年	日露戦争
1905 年	日露講和条約（ポーツマス条約）
1907 年	韓国総督府設置（初代統監・伊藤博文）
1909 年	安重根、伊藤博文銃殺
1910 年	韓国併合
1914 年	第 1 次世界大戦勃発
1915 年	対華 21 ヶ条要求。ドイツが山東省に持っていた権益を日本が継承すること、旅順・大連（関東州）の租借期限、満鉄・安奉鉄道の権益期限を 99 年に延長すること（旅順・大連は 1997 年まで、満鉄・安奉鉄道は 2004 年まで）等を、日本が中華民国に要求。
1918 年	シベリア出兵
1923 年	関東大震災
1927 年	昭和金融恐慌
1928 年	張作霖事件（関東軍による爆殺）
1931 年 4 月 14 日	<u>第 2 次若槻禮次郎※注 1 内閣発足</u>
9 月 18 日	柳条湖事件発生、「満州事変」始まる：関東軍参謀ら、謀略

により柳条湖の満鉄線上で爆薬を爆発させ、中国軍の満鉄爆破として中国軍を奇襲。

- 9月19日 関東軍、満鉄沿線を制圧。閣議、事態の不拡大を決定。
- 9月21日 関東軍、吉林へ出撃、満州へ越境。閣議、満州での事件を「事変」（満州事変）とみなす。
- 9月22日 閣議および天皇、関東軍の満州越境を追認。
- 1932年1月1日 米国国務長官、日本の満州での行動不承認を声明。
- 2月2日 ジュネーブ軍縮会議開かれる。
- 1月28日 上海で海軍陸戦隊、中国軍と交戦（上海事変）。
- 2月5日 関東軍、ハルビン占領。
- 2月20日 上海で日本軍総攻撃開始。
- 3月1日 満州国建国宣言。
- 5月15日 5・15事件：海軍青年将校ら首相官邸などを襲撃、犬養首相を射殺。
- 1933年1月30日 ドイツ、ヒトラー政権成立。
- 3月27日 日本、国際連盟脱退を通告。
- 1934年3月 金日成、朝鮮人民革命軍を編成。
- 10月15日 中国共産党軍、長征開始。
- 1935年8月1日 中国共産党、抗日救国宣言（8・1宣言）。
- 1936年1月15日 日本、ロンドン海軍軍縮会議脱退を通告。
- 2月26日 2・26事件：皇道派青年将校1500名の兵力でクーデター、斎藤内大臣、高橋蔵相らを殺害。
- 8月1日 関東軍、防疫班を防疫部へ拡充（石井細菌戦部隊）。
- 11月25日 ベルリンで日独伊防共協定調印。
- 1937年7月7日 盧溝橋で日中両軍衝突（日中戦争始まる）。
- 12月13日 日本軍、南京を占領、中国軍民を虐殺（南京大虐殺）。
- 1938年1月16日 日本政府、中国との和平交渉打ち切りを通告。「爾後、国民政府を相手にせず」との声明を発表（第1次近衛声明）
- 1938年3月～4月 台兒莊大戦

※注1（Wikipediaより抜粋）

若槻禮次郎＝島根県松江市生まれ。1866～1949年。

1924年、加藤孝明内閣で内務大臣となり、翌年、普通選挙法と治安維持法を成立させる。1926年1月～1927年4月、第25代内閣総理大臣（第1次若槻内閣）。

加藤高明が首相在職中死去したため、憲政会総裁として内相を兼任し組閣。

1926年（大正15年）12月25日に大正天皇が崩御し、その日のうちに昭和と改

元された。1927年1月、少数与党で臨んだ第52回帝国議会冒頭で、おりからの「朴烈事件」（皇室暗殺を計画）と「松島遊郭事件」（贈収賄事件に絡んで現職総理大臣が予審尋問を受けるという、前代未聞の事態が起きた）に関して、野党が若槻内閣弾劾上奏案を提出。これに対し、若槻は「予算成立の暁には政府に於いても深甚なる考慮をなすべし」という語句を含んだ文書を野党に提示。「深甚なる考慮」は内閣退陣を暗示し、予算案成立と引き換えに若槻内閣は退陣し、憲政の常道に基づき野党政友会が組閣の大命を受ける様取り計らうことを意味する。これで若槻は議会を乗り切ったが、予算が通っても一向に総辞職の気配を見せなかったことから、野党は合意文書を公開、「若槻は嘘つき総理である」と攻撃した。このため謹厳実直な能吏のはずの若槻禮次郎は「ウソツキ禮次郎」と呼ばれる羽目になった。

また帝国議会終盤の3月14日、衆議院予算委員会で大蔵大臣・片岡直温は野党の執拗な追及に対し、次官から差し入れられた書付に基づき「現に今日正午頃に於て渡辺銀行が到頭破綻を致しました」と発言する。実際には東京渡辺銀行は金策にすでに成功していたが、この発言で預金者が殺到し、休業に追い込まれてしまう。これにより昭和金融恐慌が勃発した。

若槻内閣は日銀に特融を実施させて経済的混乱の收拾を図るために、台湾銀行救済緊急勅令案の発布を諮るが、枢密院は、本来帝国議会で救済法案を可決して対応すべきところ、勅令による手続きは憲法違反であるとして否決してしまう。政策実行不能と考えた若槻は4月20日に内閣総辞職した。

次に若槻が内閣を組織するのは1931年4月のことである（第28代内閣総理大臣、第2次若槻内閣）。憲政会はそのとき立憲民政党となっていた。世界大恐慌と濱口内閣の緊縮政策により深刻な不景気を迎えていた国内では「満蒙（満州とモンゴル）は日本の生命線」とまで言われるようになっていたが、満州は蒋介石の北伐の完成により条約上の危機に瀕していた。9月18日には柳条湖事件を契機とした満州事変が発生し、若槻の不拡大方針は国民、軍部への指導力を発揮することができず（9月22日、閣議および天皇、関東軍の満州越境を追認）、終には内務大臣・安達謙蔵が「挙国一致」を訴えたため、閣僚にも見放された状態で12月には閣内不一致による総辞職となった。





盧溝橋のほとりに建つ石碑と「鬣肩（ひき）」

【台兒莊】

《台兒莊大戦》

日中戦争中の 1938 年 3 月から 4 月 7 日までの間、山東省最南部の台兒莊（台兒庄とも）付近で行われた戦闘。台兒莊の攻略を企図した日本軍部隊が、中国軍の大部隊に包囲されて撤退、徐州作戦の引き金となりました。中国側が「抗戦以来の大勝利」を宣伝し、兵士、一般国民の士気を鼓舞したことでも知られています。中国側の戦死者は 30,000 人、負傷者不明。日本側の戦死者 2,369 人、負傷者 9,615 人。中国軍は小銃と刀が武器だったのに対し、日本軍は機関銃を装備していたため、中国側の戦死者が多くなったと、台兒莊大戦記念館で説明されていました。

現在の松江工業高校に兵営のあった陸軍歩兵 63 連隊（通称・松江 63 連隊＝西は斐伊川、東は湯梨浜町の天神川にはさまれた島根県東部、鳥取県西部地域出身者を中心に編成）も第 10 師団に属して台兒莊大戦に派兵され、甚大な犠牲者が出ました。

《台兒莊大戦記念館》

台兒莊大戦記念館は、1993 年 4 月 8 日に開館して以来、世界各国からの観光客

が訪れており、中国愛国主義教育拠点の一つでもあります。

山東省棗荘市台兒荘の西南郊外、棗荘と徐州の中間点にある台兒荘大戦記念館は、絵のような古運河のほとりにあります。

展示館、書画館、映像館、パノラマ館が集まった記念館は荘厳な雰囲気を見せています。

台兒荘戦役の際の日中双方の歴史資料、文化財が千点余り展示され、書画館には参戦した将兵や親族、有名な書家、政治家の書画作品千点近くが収められています。映像館では主に、外国人記者が撮影した記録フィルムや将兵へのインタビュー記録、映画「血戦台兒荘」が放映され、中国で唯一、抗戦をテーマにしたパノラマ館では、「血戦台兒荘」を使って、絵画、彫刻、照明、音響、解説の五つにより、史実と芸術を融合させ、当時の状況を再現しています。

(山東省ホームページより抜粋)



献花する中国人民抗日戦争記念館の李館長、後ろ姿はロシア・中国友好協会のエヴゲニー副議長

※台児荘大戦は、米国 LIFE 誌等の外国人記者によって、写真に克明に記録されていた。

Cf.日本の終戦時の証拠隠滅(HP「1945 年への道」より引用)

1、2015 年の 8 月 10 日、読売新聞

占領前 文書焼却を指示

元法相 奥野誠亮さん (102)

「総理（鈴木貫太郎首相）は戦争の終結を固く決意している。ついては内務省で戦争終結方針をまとめてもらいたい」。1945 年 8 月 10 日朝、迫水久常・内閣書記官長から、内務省に極秘の要請があった。

そこで、灘尾弘吉内務次官の命を受け、内務省地方局戦時業務課の事務官（現在の課長補佐クラス）だった私が各省の官房長を内務省に集め、終戦に向けた会議をひそかに開いた。

もう一つ決めたことは、公文書の焼却だ。ポツダム宣言は「戦犯の処罰」を書いていて、戦犯問題が起きるから、戦犯にかかわるような文書は全部焼いちまえ、となったんだ。会議では私が「証拠にされるような公文書は全部焼かせてしまおう」と言った。犯罪人を出さないためにね。

会議を終え、公文書焼却の指令書を書いた。ポツダム宣言受諾のラジオ放送が 15 日にあることも聞いていたので、その前に指令書を発するわけにはいかないが、準備は整っていた」。

2、林三郎（元阿南陸軍大臣秘書官）著 『太平洋戦争陸戦概史』 岩波新書

「八月十四日の御前会議で終戦の聖断が下された。陸軍中央部では聖断に従い、皇軍の最後を清くする旨の大臣、総長の訓示があった。しかしながら、市ヶ谷台上（引用者註；陸軍省）には誠に慌しい空気が漂うた。同日夜、台上のあちこちでは終夜夥しい書類を手当り次第に焼いていた」。

3、広瀬豊作氏（終戦時の大蔵大臣）発言 大蔵省大臣官房調査企画課編 『聞書戦時財政金融史』 大蔵財務協会

「内閣の中でやることも、ほとんど新聞に発表しないことが多く、記録に残らず、実行して闇から闇に葬られることも相当あったと思う。

私もご承知のとおり終戦直後、資料は焼いてしまえという方針に従って焼きました。これはわれわれが閣議で決めたことですから、われわれの共同責任のわけですが、あの当時、当然アメリカだけが来て今日のような態度でやってくれるということがわかっておれば問題はなかった。なにもそれほど用心する必要はない。

その当時の予想としては交戦国のいずれが来るか、全然わかっていなかった。おそらく中国、アメリカ、ソ連と皆来るであろう。もっともソ連も満州でやったようなあんなむちゃをやるとは、当時は思わなかった。ソ連とは最近まで、条約によって戦争はなかった。逆に中国は満州事変、支那事変で先方において恨みを抱いておることが相当あって、中国が来たら相当の仕返しをするだろうということを一番懸念していた。そういうことが一番の恐れであった。

そういうわけで資料は全部焼くという大方針が決まったわけであるが、閣僚各自、自分の持っているものを焼こう。軍の関係あるいは各省関係の書類についても同様の措置を採ろうというので、それぞれ所管大臣から命令を出して、できるだけ早く焼いてしまえと通達したわけですから、残ったものはあまりないであろうと思う」。

4、溝部竜『史料紹介 市ヶ谷台史料』 防衛省戦史研究所「戦史研究年報」第1号

「平成8年（引用者註：1996年）4月末、自衛隊市ヶ谷駐屯地で、終戦時焼却された筈の旧陸軍文書が焼け残った状態で大量に発見された。防衛研究所戦史部は、これらの史料を「市ヶ谷台史料」と命名し、平成9年度（引用者註：1997年度）から本格的な修復作業を実施中である。以下、この「市ヶ谷台史料」の発見から修復にいたる経緯と史料の内容についてその概要を紹介する。

一、昭和20年（引用者註：1945年）8月14日、日本政府は閣議でポツダム宣言受諾を決定するとともに重要機密文書の焼却を決定した。これに伴い陸軍は各部隊、官衙、学校などに機密文書の焼却を指令した。陸軍省、参謀本部など陸軍中枢機関の所在した市ヶ谷台では数日にわたり大量の秘密文書が焼却された」。

《中国山東省棗莊市台兒莊》

商業が栄えたために天下第一荘（※荘は村落の意）といわれた台兒莊古城は運河が発達し、「水郷」の名がふさわしい景観が広がっています。

2008 年、ポーランドのワルシャワ、イタリアのポンペイ、中国麗江に続いて、台兒莊は四つ目の世界遺産の古城（旧市街）となりました。流れにかかる橋と岸に垂れる柳、風情あふれる台兒莊古城には、清代の街並みの姿が残っています。宿泊したホテル「天下第一荘」は、日本でいう古民家風の 2 階建ての建物 8 棟で構成されているホテルでした。



一方、イスラム寺院に残る銃痕が戦争の激しさを今に伝えています。





台児荘でも「中国全民族抗戦勃発 80 周年記念」のイベントが行われており、日本軍国主義の「罪行」を記録した写真 3 5 0 点を、上のような建物 4 棟で展示していました。「Japanese Aggression」(日本の侵略)の歴史、7 3 1 部隊の人体実験、南京大虐殺などの写真の最後の展示は、「7 3 1」の機体番号の自衛隊戦闘機に笑顔で乗り込んでいる安倍晋三首相の写真でした。

【結び】

1、中国人民抗日戦争記念館の李宗遠館長「小松昭夫理事長は私の古い友人です。何かあったら、いつでも、なんでも相談してください」。

台児荘大戦記念館の孔令欣館長「ようこそいらっしゃいました。これからもご協力お願いします。また、ご意見もお聞かせください。早速のお願いですが、日本人当事者、およびそのご家族がお持ちの台児荘大戦関連の写真収集にご協力いただけないでしょうか」。

2、李館長、孔館長はじめ各館のスタッフ、通訳の学生の皆さんが、私達日本人 3 名に対して、大変細やかな気遣いをしてくださっていることが感じられ、ありがたいと感じました。

2、この背景には、2 0 0 1 年、中国人民抗日戦争記念館に献花・寄付、2 0 0 2 年、台児荘大戦記念館に献花・寄付。また、ザクロと銅像で有名な棗荘市で、孔子、孟子、周藤彌兵衛翁、清原太兵衛翁の 4 体の銅像を発注・製作し、2 0 0 2 年、台児荘大戦記念館で、中国側 3 0 0 0 人、日本側 4 0 人で、銅像の完成出発式を行ったこと。さらに、2 0 1 5 年、周藤彌兵衛翁の大銅像を製作したこと、等々の人間自然科学研究所と小松理事長の、これまでの実績があります。

3、台児荘から北京南駅に帰り、タクシーでホテルに向かおうとしたところ、50メートルにもなろうとする長蛇の列。あきらめて、地下鉄で3駅移動し、呉さんがスマホのアプリを活用してタクシーを呼び、ようやくホテルにたどり着きました。北京の大きさ、人民の多さが身に沁みました。

4、北京市内の電線の束。PM2.5同様、急速な経済成長の歪みを感じる風景でした。



5、終日のフォーラムと、棗荘市への移動で、北京市内の一般的な観光は、タクシーの車窓から観た天安門だけだったことが、すこし残念でした。



以上